



朝日新聞大阪本社
発行所：〒530-8211大阪府北
中之島3-2-4 電話：06-6231-0111
www.asahi.com

文化

フロンティア 列伝

国際日本文化研究センター(京都)准教授
磯前 順一さん (51)

ファン心理から宗教に迫る

なぜ人は何かに魅了されるのか。そのとき、感情はどう動いているのか。宗教学の最新のテーマでもある、そんな心の内側の謎に、1960年代に一世を風靡したグループサウンズのバンド「ザ・タイガース」を考察することで迫ろうと、同僚や中古レコード店主、音楽評論家らと共同研究を始めた。

昨年(2011)から今年1月(2012)にかけて、沢田研二や瞳みのるら元メンバー

4人が顔をそろえたコンサートツアー。往年のファンは涙を流し、ステージを見つめた。「当時、女の子たちは部屋で彼らの音楽を聴いて、宗教は信じていなくても、何らかのカタルシスや救いを得ていた」。日常の中で、そんな感情の動きにこそ、宗教的なものの萌芽を見る。

60年代後半は、高度成長期から社会に異議が申し立てられる時代への転換点だ。「学生運動

をめぐるメンバーの葛藤なども描くことで、音楽を介し巻き起こされた感情の渦を追体験できるものにしたい。それは、現代の我々が共感できる戦後日本の民衆史や思想史になる」

これまで、近代日本の宗教学や1933年のマルクス主義者の思想転向などの学史を追うなかで、「学問とは何か」と問わざるを得なかったという。「論理で内面や感情を抑圧し、日常生活から遠いものを語っていたがゆえに、いざ内面を言語化しようとして足をすくわれる。知識人に共通するつまずきです」

オウム真理教の拡大に宗教学者が関与したことに同じ構図を見る。ではどうするか。

「自分のよりどころのなさや不安、満たされなさを消すのではなく、表現して、人々と共有する。そこに他者とならうとする可能性が生まれる」

そのあり方は、現代を生きる孤独な私たちへの処方箋ともなりそうだ。(久保智祥)



ザ・タイガースのレコードでは「ヒューマン・ルネッサンス」が一番のお気に入り。京都市

いそまえ・じゅんいち 茨城県生まれ。宗教、歴史研究。東大助手、日本女子大助教授を経て2007年から現職。著書に「近代日本の宗教言説とその系譜」、「喪失とノスタルジア」など。